*2012年 7月 1日改訂(第2版)
2008年12月15日作成(第1版)

医療機器認証番号 15500BZZ01461000

機械器具51　医療用嘴管及び体液誘導管

管理医療機器　　消化管用チューブ　14202000

ＪＭＳ　Ｅ・Ｄ・チューブ

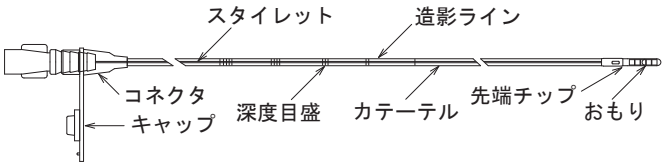
（ＰＶＣフリー）

再使用禁止

【警告】
●スタイレット又はガイドワイヤ(以下「スタイレット等」という。)の操作は、慎重に行うこと。[患者の器官損傷及びカテーテル損傷のリスクが高くなる。]

*【禁忌・禁止】
●再使用禁止
●スタイレット等は、カテーテルが正しい位置に留置されたことを確認するまで引き抜かないこと。又、スタイレット等の再挿入は行わないこと。[スタイレット等の再挿入は、側孔からスタイレット等の先端が飛び出し、胃、腸等の消化管壁を損傷させる恐れがある。]
●スタイレット等は、カテーテル詰まりの解消等本来の使用目的(カテーテル留置補助)以外の用途に使用しないこと。
●患者がポリウレタンにアレルギー反応を示すと考えられる場合は、使用しないこと。*

*【形状・構造及び原理等】
体内に挿入するカテーテル及び栄養投与セット等と接続するコネクタからなる。カテーテルには挿入長を示す深度目盛がついており、造影ラインが入っている。先端部には、カテーテルの挿入を容易にするためのおもりがつく。又、カテーテルの挿入時にガイドとして使用するスタイレットを含む製品もある。
＜構成(代表例)＞



・本品のコネクタ、カテーテル、造影ライン、先端チップにはポリウレタンを使用している。*
・上記構成と当該製品の構成が異なる場合がある。
＜深度目盛の位置＞

Frサイズ	カテーテル先端からの深度目盛位置(目安)
5Fr	500mm、600mm、700mm、800mm、900mm
8Fr	150mm、200mm、250mm、300mm、350mm、400mm、450mm 500mm、550mm、600mm、650mm、700mm、750mm、800mm 850mm、900mm

＜カテーテルサイズ＞

表示サイズ	寸法	
	公称外径	有効長
1.7mm(5Fr)	1.7mm	200～1600mm
2.7mm(8Fr)	2.7mm	

【使用目的、効能又は効果】
経口で栄養摂取できない患者に、本カテーテルを経鼻又は経口的に十二指腸又は空腸の中に留置し、経管的に栄養を補給するのに使用する。

【品目仕様等】
1. 引張強さ(接続部及びカテーテル)
下記の張力を加えたとき、接続部の外れ及びカテーテルの破断、き裂を生じない。

カテーテルの外径	強さ
2mm未満	5N
2～4mm未満	10N

2. 引張強さ(栄養投与セット等との接続部)
本品のコネクタと適合するオスコネクタと接続し、15Nの力で引っ張ったとき、外れない。
3. 気密性
本品のコネクタと適合するオスコネクタと接続し、すべての開口部を閉じてから水を用いて接続部を50kPaで加圧したとき、漏れを生じない。

【操作方法又は使用方法等】
1. 包装から本品を取出します。
2. カテーテルをスタイレットと一緒に、十二指腸又は空腸の留置位置まで鼻腔又は口腔から挿入します。
3. 留置位置をエックス線透視下等で確認後、スタイレットを抜去します。
4. 経腸栄養投与セット等と接続し、本品を固定します。
5. 栄養剤等の投与を開始します。
6. 栄養剤等の投与終了後、経腸栄養投与セット等との接続を外し、注入器等でカテーテルに微温湯等を注入して洗浄します。
7. 次回の投与まで、コネクタのキャップを閉じておきます。再投与はコネクタのキャップを開けて注入器等でカテーテルに微温湯等を注入して洗浄し、上記手順に従います。
8. 本品の抜去は、ゆっくりと慎重に行います。

使用方法に関連する使用上の注意
●栄養投与セット等との接続は、外れないように確実に行うこと。なお、過度な締めつけをしないこと。[コネクタが外れない、コネクタが破損する可能性がある。]
●カテーテルを挿入する際は、感染防止に留意すること。
●カテーテル挿入時に異常な抵抗を感じた場合は、無理に挿入操作を行わずカテーテルを抜去して挿入できなかった原因を確認すること。
●気管壁の損傷並びに気管・肺への誤挿入及び誤留置に注意すること。カテーテル挿入時に抵抗が感じられる場合又は患者がせき込む場合は、肺への誤挿入の恐れがあるため無理に挿入せずに、一旦抜いてから挿入すること。[肺の器官損傷又は肺への栄養剤等の注入により、肺機能障害を引き起こす恐れがある。]
●カテーテル挿入時及び留置中においては、カテーテルの先端が正しい位置に到達していることをエックス線撮影、胃液の吸引、気泡音の聴取又はカテーテルマーキング位置の確認等複数の方法により確認すること。
●スタイレット等の操作は慎重に行い、抵抗等により抜去できない場合はカテーテルと一緒に抜去すること。[無理に引き抜いた場合、カテーテルが損傷する恐れがある。]
●スタイレットを挿入した状態で胃液を吸引する際は、カテーテル内でスタイレットが動かないように注意すること。

●挿入時及び留置中は鼻腔、咽頭、喉頭、食道、胃粘膜への損傷や穿孔に注意すること。
●カテーテルを鉗子等で挟まないこと。[カテーテルの折れ、潰れ又は破損による液漏れが生じる。]
●留置中にカテーテルがずれないように、しっかり固定すること。
●コネクタに栄養剤等を付着させないこと。[接続部に緩みが生じる。]
●キャップに栄養剤等を付着させないこと。[キャップが外れる可能性がある。]
●投与を行わないときは、キャップを閉じること。
●抜いたカテーテルは再使用しないこと。

*【使用上の注意】
1.重要な基本的注意
●併用する栄養剤、医薬品等及び医療機器の添付文書を確認後、使用すること。*
●一次包装を開封する際は、はさみ等の刃物を使用しないこと。[本品を傷つけ、組織粘膜等の損傷や穿孔を生じる可能性がある。]*
●一次包装を開封したらただちに使用すること。
●一次包装が破損、汚損している場合や、製品に破損、変形等の異常が認められる場合は使用しないこと。
●使用するカテーテルは、患者に合わせて適正なサイズのものを選定すること。
●挿入時には、歯、鼻甲介等及び鋭利なもの等でカテーテルを傷つけないよう注意すること。[液漏れ､エアの混入が生じる可能性がある。]
●使用前は接続部に緩みがないことを確認してから使用すること。又、使用中は定期的に緩み及び液漏れ等がないことを確認すること。
●接続部を曲げたり、カテーテルを過度に引っ張ったり、押し込むような負荷がかからないようにすること。[接続部の外れ及び液漏れ、カテーテルの破損等が生じる可能性がある。]
●カテーテルの自己抜去防止策を施すこと。[自己抜去により、粘膜損傷及びカテーテル破断の可能性がある。]
●留置中はカテーテルの留置位置及び閉塞等を定期的に確認すること。[患者の体動等によりカテーテルが閉塞する可能性がある。]
●栄養投与の前後は、必ず微温湯等によりフラッシュ操作を行うこと。[栄養剤等の残渣の蓄積によるカテーテル詰まりを未然に防ぐ必要がある。]
●カテーテルを介しての散剤等(特に添加剤として結合剤等を含む薬剤)の投与は、カテーテル詰まりの恐れがあるので注意すること。
●栄養剤等の投与又は微温湯等によるフラッシュ操作の際、操作中に抵抗が感じられる場合は操作を中止すること。[カテーテル内腔が閉塞している可能性があり、カテーテル内腔の閉塞を解消せずに操作を継続した場合、カテーテル内圧が過剰に上昇し、カテーテルが破損又は断裂する恐れがある。]
●カテーテル詰まりを解消するための操作を行う際は、次のことに注意すること。なお、あらかじめカテーテルの破損又は断裂等の恐れがあると判断されるカテーテル(新生児・乳児・小児に使用する、カテーテル外径が小さく肉厚の薄いカテーテル等)が閉塞した場合は、当該操作は行わず、カテーテルを抜去すること。
(1)注入器は容量が20mL以上のものを使用すること。[容量が20mLより小さな注入器では注入圧が高くなり、カテーテルの破損又は断裂の可能性が高くなる。(自社データによる。)]
(2)スタイレット等を使用しないこと。
(3)当該操作を行ってもカテーテル詰まりが解消されない場合は、カテーテルを抜去すること。
●本品は経鼻又は経口的に栄養剤等を投与するものであるため、胃ろう等の他の目的には使用しないこと。
●胃内容物の逆流等により、カテーテルが閉塞する可能性があるので、定期的に新しいものと交換すること。
2.その他の注意
●接続部には直接手を触れないこと。
●使用後は感染防止に配慮して安全な方法で処分すること。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】
1.貯蔵・保管方法
●水ぬれに注意し、高温、多湿な場所、及び直射日光、蛍光灯等の紫外線を避けて保管すること。
2.使用期限
●箱の使用期限欄を参照すること。[自己認証(当社データ)により設定]

【包装】
10本／箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】
製造販売元及び製造元
株式会社ジェイ・エム・エス
広島市中区加古町12番17号
郵便番号：730-8652
電話番号：082-243-5806